

事業所名 児童発達支援事業所ぽてと 支援プログラム 作成日 2025年3月17日

法人（事業所）理念	子ども一人ひとりの個別のニーズに合わせた支援を行い、将来の自立や就労を視野に入れて療育を行う。 児童の主体性と個性を尊重し、様々な場面において可能な限り自己決定できるよう支援する。						
支援方針	当該児童が楽しい場所だと感じ、事業所に来ることが心の安定に繋がるような支援を行う。 就学に向けて主体的に日常生活における基本的動作及び知識技能を習得できるように支援する。 生活能力の向上のために必要な経験が出来るような環境を提供し、当該児童の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて個々に合わせた指導及び訓練を行う。						
営業時間	9時	30分から	15時	0分まで	送迎実施の有無	あり なし	
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	身辺自立に必要な手先の微細・粗大運動など個々に合わせたプログラムを組み立てます。登降所時の身辺処理、衣類や靴の着脱、排泄など日常生活に必要な日常生活動作が自分でできるように、発達段階に応じて支援していきます。トイレに行くタイミングの声掛け、手洗いの仕方は掲示で視覚化する等し生活する力や生きる力が身に付いていくようにします。生活健康面では自分の体調に意識を向けいつもと違うと感じた時に周囲に伝えられるような力を養っていきます。					
	運動・感覚	ボタン付けや感触の違う玩具等の様々な遊びを通して基本的運動機能の取得や色彩感覚、感覚に刺激を与えるなど五感を働かせて活動できるようにします。併せて、鉛筆を持つ、ハサミを使用するなどの微細運動を意識した練習を行っていきます。また、粗大運動ではトランポリン等の遊具を使用し体の使い方や体幹、バランス感覚を鍛え、正しい姿勢を保つ練習をしていきます。					
	認知・行動	数、形、大小、重さ、色、時間などの課題に取り組みながら理解を促します。SSTでは「こんなときどうする？」等と問い合わせをし、状況に合わせた適切な言葉かけや行動について学んでいきます。製作を通して季節を感じたり、ルールを守る事や、タイマーの取り入れを行う事で視覚や聴覚等の感覚を通して認知機能の発達を促していきます。					
	言語 コミュニケーション	自己表現しやすい環境づくりを目指し自分の思いや考えを伝える、また伝わる事の喜びが味わえるように支援を行います。困った時や助けて欲しい時にどのような言葉を使えばよいのか、嬉しい時や楽しい時にどのような言葉で表現したら良いのかなど、場面に応じた適切な言葉を学び多くの言葉に触れられるようにします。絵本等を通して気持ちの理解を増やし語彙の獲得に繋げていきます。言葉の発語や表現が難しい児童に関しては絵カードや指差し、身振り手振りなどを使用し代替のコミュニケーション能力の向上を目指します。					
	人間関係 社会性	自信を持ってあいさつや返事ができるように、使用的タイミングや場面と一緒に考え助言します。職員との関係構築と他の児童との関係づくりを促していきます。発達段階に応じて順番待ち、感情のコントロール、社会的ルールなどについて学べるように支援していきます。相手の目を見て話す、相手の話を聞く、自分の思いを自分で伝えることができるよう練習していきます。また、就学に向けて正しい横断歩道の渡り方や交通ルールについての学習をしていきます。					
家族支援	懇談会や療育見学、個別相談、療育後のフィードバックを実施します。			移行支援	必要に応じて相談支援事業所と連絡を取り連携します。 就園、就学に向けての相談に対応します。		
地域支援・地域連携	園や病院、関わりのある他機関等と必要に応じて連携していきます。			職員の質の向上	利用児の情報共有を行い職員間で確認できるようにします。 法人として同じ方向を向き支援できるように職場環境作りをします。 新入職員研修、法定研修、ケース会議等を実施します。		
主な行事等	四季を感じられるよう季節に応じた行事や活動を行います。						